



こんにちは 教育委員です

発行:今金町教育委員の会
〒049-4393 北海道瀬棚郡今金町字今金48−1
TEL:0137-82-3488【No.78】H22(2010).7.21
E−mail:mitsuhiro.nakajima@town.imakane.lg.jp

美利河の里の大運動会

美利河小学校と美利河自治会の連合大運動会が６月２０日（日）開催されました。今年の山村留学生は（小学１年生を含む）５名、地元生１名の計６名の学校ですがこの日は早朝から自治会のみなさんはもとより、学校支援地域本部から体育指導委員、スポーツ指導員、なでしこの会（看護士ＯＢの会)、役場サポーター、ライオンズクラブなど多くの方々が駆けつけ、地域ぐるみの運動会となりました。また、入学して間もなく３ヶ月を迎える運動会と７ヶ月目を迎える学習発表会は、学校にとっても全国各地から入学している山村留学生の保護者（実親）と子どもの成長を確認したり、学校生活や里親生活の様子や児童の指導について相互確認する貴重な機会でもあるのです。



山村留学にいたる動機は様々でありますが、全国各地から美利河の里にやってくる留学生やその家族に共通するのは「より楽しく学校生活をおくりたい」、「自然に恵まれた環境の中で過ごさせてあげたい」、「長い歴史と経験のある美利河山村留学（２０年）に子ども預けたい」という願いであります。子どもたちは、多感な時期に親元を離れて学校生活を送ることで、自分自身と向かい合い、生きる力を育みます。山村留学は、それを見守り、助け、伸ばしてあげる環境づくりです。



また、かわいく、愛おしい時期の子ども達を送り出す家族の決意は決して軽いものではありません。１年を通して美利河の大自然に抱かれた子どもたちは、先生方や里親の方々のピリカ湖のような深い愛情で雪解けの季節には「美利河の里の子」として明るくたくましく成長し、感謝と感動の言葉を残し新たな進路へ旅立ちます。

こうした子ども達の成長する姿が学校と地域を結びつけるだけでなく、時には親たちの子育てに対する意識の変化や成長にも少なからず影響を与えてきました。また、山村留学制度の根幹をなしているのは里親の方々です。家族の一員として向かい合い、献身的な愛情で叱咤激励の日々を重ねてこられたことが実を結び、美利河の里を巣立った子ども達が全国各地で活躍する礎となっているのです。

美利河山村留学は、地元生（小学４年生）が卒業する年に長い歴史のピリオドを迎える予定となっています。

追伸：後日運動会の児童達の作文集が教育委員会に届きました。楽しく読ませていただきました。

ありがとう。ドキドキ感が伝わりました。

現職の北海道教育委員会教育長が初来町
『高橋教育長行政視察懇談』

道教委の高橋教一教育長、武藤教育政策課長が教育行政視察のため６月３０日本町を訪れ、今金幼稚園、今金小学校を視察後、町民センターを会場に教育懇談会を実施しました。今金幼稚園では、坂本園長からは来年４月に開設する(仮称)認定こども園いまかねについての説明後、園児達が育てたミニ菜園やミニ田んぼ、保育の様子などを見学､今金小学校では、澤田校長から今金小学校建設の経緯や地域に開かれた学校づくりを目途とした特徴的な構造やしくみの実際について説明がありました。



町民センターを会場として行われた教育懇談会では、中島教育長より「今金町における教育委員会活性化のための取り組み～３つの視点１．意識改革　２．機構改革　３．大学の相互連携～」について説明し、その後、高橋教育“長からは教育大学との連携について、武藤教育政策課長から学社融合ファイルの取り組みについて質問があり、今金町の取り組みが先進的であることや職員への労いの言葉をいただきました。また、高橋教育長からは、教育大学との連携の実際を担当者に視察させる旨のお話も頂くなど、貴重な懇談の機会となりました。





委員リレー寄稿「歳時記」



今月は、田中教育委員です。

『クラス会』

７月１７日、今金高校卒業４０年のクラス会をクアプラザピリカで開催しました。

今金高校？若い世代の人には「そんな昔、今金に高校なんてあったんですか？」と言われますが、そう、あったんです。われらが母校・今金高校が。

現在の高美公園から総合体育館、老人福祉センター、町立幼稚園までの広大な敷地に、細なが～い木造平屋の校舎があったんです。



懐かしい「今金高校」

終戦後、間もない昭和２３年設立認可、今金小学校の一部を間借りして開校。昭和２５年、校舎落成移転（町史より）。私たちは、昭和４５年２２回生として卒業。２年後の４７年最終の卒業生を送り出し、同年４月より北檜山高校との統合、檜山北高校の新設により閉校となりました。この間、２，７３３名の卒業生がいるそうです。

私たちの中学、高校の時代は、調べてみますと、町内に１０校の中学校があり、３６０名の同級生です。（ちなみに現在は、１つの中学校で全学年の合計が１３８名で、１年２クラス５２名、２年２クラス４８名、３年１クラス３８名です。）少子化の現在では考えられない生徒数です。

高校への進学率は６０～７０％、今金高校の間口は４（現在檜山北高校は、３間口）。普通科２学級１００名、家政科５０名、農業科４０名だったと記憶しています。国鉄瀬棚線があり隣町の北檜山や長万部からも入学希望者があり、入試倍率は田舎の学校ですが１．２～１．４倍ほど。皆、ある程度は勉強していました。競争は必要な事です。高卒後の進学率は約３割、就職は１００％決まり、良い時代だったのかなぁ。（ちなみに平成２１年度の檜山北高校の入試倍率は、１．０３倍、進学決定率は、９７．６％、就職内定率は、９７．０％です。）

クラス会の話に戻りますが、３クラスで卒業生１４８名中、出席者３０名、住所不明１５名、死亡者７名に黙祷。３名の担任の先生方も出席いただき、会は４０年の時を超え、すぐさま盛り上がりました。年相応に顔も広くなり（特に上部）、人間の幅も広くなり（特にお腹周り）、思い出話から現在の様々なことまで、夜半過ぎまで飲み語り、語り飲み、それぞれの皆さんが元気を貰いあったと思います。次回の再会を誓い合い、今週から変わりない日常が始まり、それぞれの立場、立場で、ご奮闘のことでしょう。

お土産には、今金フォトコンテストの絵はがきと地酒を使用しました。地元の施設や地元の産品を活用するためにも、皆さん、クラス会、同期会等おおいに開催しましょう。



統合当時の檜山北高校



現在の檜山北高校